
だから僕は死ぬことにした。

保科 郁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だから僕は死ぬことにした。

【Nコード】

N8194C

【作者名】

保科 郁

【あらすじ】

題名の通りです。その考えに至るまでの経緯…とでもいいましょうか；たぶん切なめ？

貴女は 僕に無関心だった。

優しくはあったけれど それは表面上のもので、貴女の眼が懐かしげに微笑む時は 決まって僕ではなく、僕と生き写しのあの人を出しているんだ。

たまにその想い出から抜け出せず、僕をあの人の名前で呼ぶときもあった。

僕はそれが嫌でしかたなかった。

まるで僕があの人の代用品のように扱われている気がして…。

僕は貴女の気を引きたくて 色々な事をした。
貴女を誉めたり あの人以上に優しく接したり、時には 乱暴な態度をとって目をひかせたりした。

でも貴女はその全てのことに微笑みで返すだけで、僕を見てなんてくれなかった…。

そんな事が数年も続き、僕は疲れ果ててしまったんだ。

貴女の気をひくことに。

貴女に、あの人の代わりではなく 自分自身を見てもらおうと努力することに。

だから僕は死ぬことにした。

…貴女の目の前で。

死んでしまったあの人の代わりではなく、それ以上に見てもらおう為には、これが一番いい方法なのではないかと思えた。

……そう。

僕は 彼女の心に残るために死ぬことにしたのだ。

そして それは成功したみたいだ。

目の前で喉を掻き切り 倒れ伏した僕に、貴女は半狂乱になって縋りついてきた。

あの人の代わりではない証拠に ちゃんと僕の名前を呼んでくれている。

その顔は涙でぐちゃぐちゃだったけれど、僕にはとても美しいものに感じられた。

それはきつと、僕の為だけに流されている涙だからだろう。

やっと僕自身を見てくれたことに とてつもない幸せを感じた。

死にゆく体は冷たくなっていく筈なのに、僕の心は なんだか暖かった。

その暖かさのままに頬を緩めると 僕は小さく呟いた。

『…ありがとう………』

——と。

今までずっと…、

あの人、父が亡くなってから 微笑み以外は何の反応も示さなく
なってしまうていた……母に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8194c/>

だから僕は死ぬことにした。

2010年10月19日02時39分発行